

俵山大橋の復旧における技術的な工夫



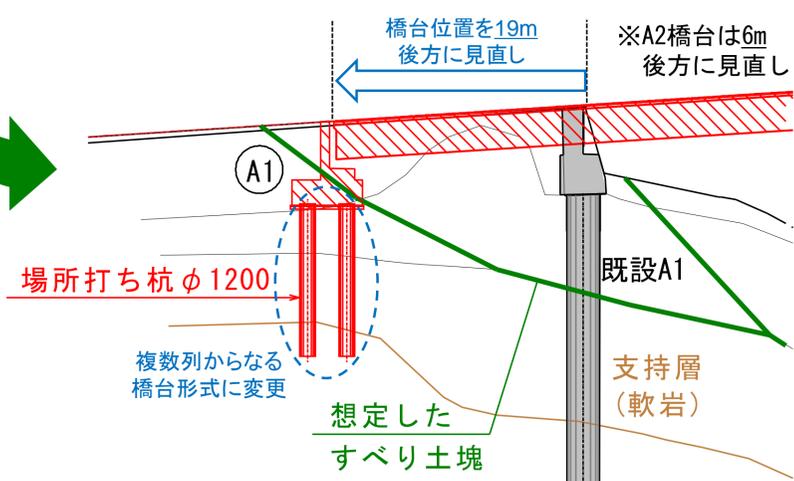
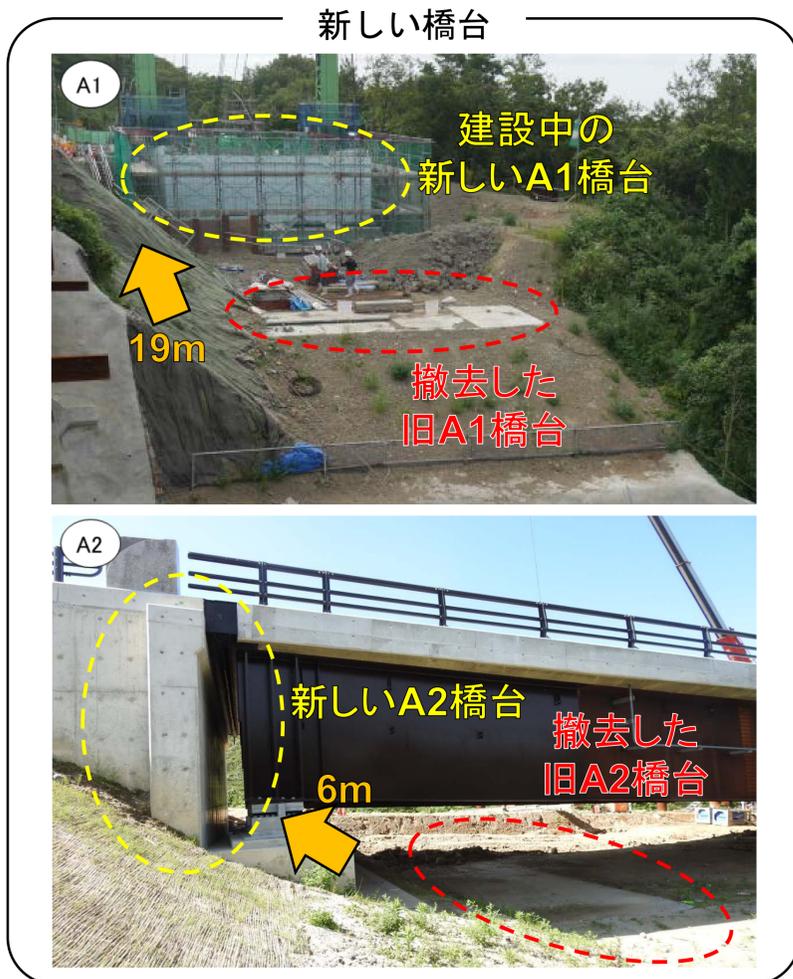
桁の架設が進む俵山大橋

橋梁諸元	
橋長	140m → 165m
上部構造	3径間連続鋼鈹桁橋
下部構造	逆T式橋台、張出橋脚
基礎形式	深礎杭、大口径深礎杭 ↓ 場所打ち杭、大口径深礎杭
架設年次	平成13年
供用再開	令和元年8月3日

※矢印は復旧前後で変更があったことを指す

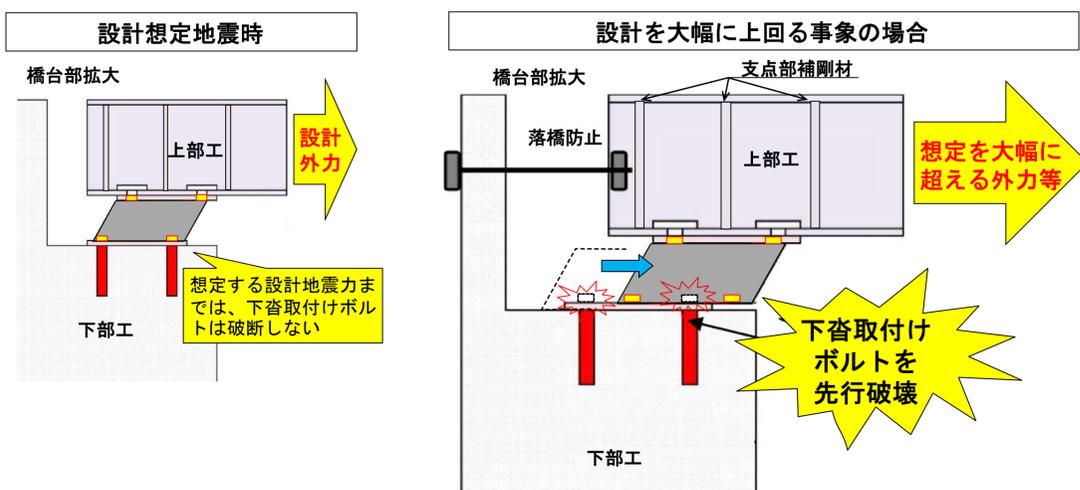
① 斜面崩壊の影響を受けにくいよう橋台の位置・構造を見直し

○ 大地震で斜面が崩壊しても損傷が生じにくいように、斜面崩壊の影響を受けにくい後方に橋台を再構築しました。



② 想定外の変位に対する“壊れ方”を制御する考え方を導入

○ 想定を大幅に上回る変位が生じてても早期に復旧可能となるように、“壊れ方”を制御する設計を導入しました。



支承の“壊れ方”を制御する考え方



支承の設置状況